

■淡海三船 漢学者・詩人。創成期文官のトップで「懷風藻」「唐大和上東征伝」、さらには、天皇漢風諡号を撰したという。

おうみのみふね

百万町歩計画 722= 天智天皇の子大友皇子と、天武天皇が額田王との間にもうけた娘十市皇女との子葛野王の孫に生まれ、御船王と呼ばれる。

生来、聡明であったが、

長屋王の変・ 729= 7歳 :

..... 731= 9歳 :

天智天皇直系のため、天武朝での出世の場所のないこと、藤原氏からは、ライバルとなるような優秀な皇族が疎まれていたことから、

..... 736=14歳 : この年来日した唐僧道? (王偏に睿)に従って出家、僧名を元開とよぶ。

藤原四卿没・ 737=15歳 :

藤原広嗣の乱 740=18歳 :

仏門での修行で、学問の基礎も形成され、

孝謙天皇・・ 749=27歳 :

懷風藻・・・ 751=29歳 : \*初の漢詩集「懷風藻」が刊行され、選者の名は伏せられるものの、淡海先帝すなわち天智天皇の御代から、藤原四卿までの漢詩を収め、大友皇子、葛野王ら数人には、選者により、とくに伝記が付されていることから、その功を認められてか、勅によって還俗し、淡海真人の氏姓を賜わり、学問生として渡唐することになったことなどから、三船の撰であったことは、ほぼ確実であるが、

大仏開眼・・ 752=30歳 : この年派遣された遣唐使に同行するが、病によって停止され、渡唐の機会を失う。

鑑真来日・・ 754=32歳 : 現代に伝わる詩七首のうち2首作詩。

聖武天皇没・ 756=34歳 : この年、「続日本紀」に、突如として、内堅(天皇の側近に仕える人で地位は低い)三船が、出雲守大伴古慈斐とともに、朝廷を誹謗したとして左右衛士府に禁固されるが、孝謙天皇の詔で、3日後に放免されたとの記事が出る。聖武天皇が死の直前に、光明皇后、藤原仲麻呂に一矢を報いようと、後継に道祖王を指名して、不穏な状況になったところ、古慈斐からの求めに応じて意見を述べたところを、見せしめに咎められたようで、結果として、三船の博識ぶりと、権力に堂々と対峙する様から、その貴種であることが、皆に、思い起こされ、その名が一気に知れ渡ることになる。古慈斐は左遷となるが、同じ大伴氏の家持が、万葉集に、三船の讒言によるとの、長歌と短歌二首を載せているように、壬申の乱での敵同志の末裔であり、家持の「万葉集」編纂は、「懷風藻」に対抗しようとしてなされたのである。

橘奈良麻呂乱 757=35歳 : 橘奈良麻呂の乱を経て、

孝謙天皇讓位 758=36歳 : 尾張介となる。母光明皇后の存在を背景とする藤原仲麻呂の専横を抑えようとする孝謙上皇にとって、格好の存在となり、以後、重用され、上皇の命によって、神武から聖武までの天皇の漢風諡号を一斉撰進したとされるが、大友皇子直系であるため、ここでも、名は秘せられた。

光明皇后没・ 760=38歳 : 正六位上で山陰道巡察使に任ぜられた。

..... 761=39歳 : 従五位下に昇叙、参河守に任命され、

その後、文部少輔・美作守、

惠美押勝の乱 764=42歳 : 池の築造のために近江国へ派遣されたが、\*藤原仲麻呂の乱が勃発し、仲麻呂は近江国へ遁れ、使者を遣わして兵馬を徴発しようとした。勢多にいた三船は、仲麻呂の使者とその与党を捕え、追討の將軍らとともに勢多橋を焼いて、仲麻呂の進路を阻止した。その功によって、正五位上を特授され、

..... 765=43歳 : 勲三等を授けられ、さらに、

道鏡法王・・ 766=44歳 : 功田20町を賜わり、子に伝えることを許された。

..... 767=45歳 : 兵部大輔に任命された。ついいには巡察使に選ばれるが、任地下野国には道鏡と同族の弓削宿禰薩摩がおり、職務上の不正を指摘したところ、逆に、その措置が検括酷苛であると朝廷に訴えられ、道鏡に籠絡されてしまった(孝謙から重祚)称徳天皇勅によって任を解かれ、大伴家持とともに大宰少弐に任ぜられてしまう。しかるに、その勅には、巡察使に選ばれるにあたっては、他に抜きんでるほどの推薦があったと書かざるを得なかったことが、周囲の見方であったのである。

宇佐八幡神託 769=47歳 :

東大寺完成・ 771=49歳 : 刑部大輔、

厭魅事件・・ 772=50歳 : 天智天皇系の光仁天皇になって、大学頭で文章博士を兼ね、おそらく藤原仲麻呂の代に着手された「続日本紀」の草案の修正にも従事、天平元年の項で、長屋王事件を告発するなど、藤原氏も一目を置かざるを得ない存在になっており、

山部立太子・ 773=51歳 : 田4町を賜わっている。

..... 776=54歳 :

16遣唐使・・ 777=55歳 : 大判事に任ぜられたが、

..... 778=56歳 : 再び大学頭に任命され、文章博士をものごとく兼ねた。

..... 779=57歳 : この頃、\*「唐大和上東征伝」を撰修、鑑真の来日を決心させたのが長屋王であると記している。「起信論注」を執筆し、留学僧戒明の将来した「釈摩訶衍論」が偽撰であると批判した「送戒名和尚状」を書き、さらに来日した新羅使に詩を贈るなど、卓越した学力・透徹した批判力を発揮、まさに一流の文人ぶりを証明し、

蝦夷大反乱・ 780=58歳 : 従四位下に昇叙され、

桓武天皇即位 781=59歳 : また大学頭に任ぜられている。光仁太上天皇の大葬に当っては御装束司となり、

万葉集完成・ 782=60歳 : 大学頭兼文章博士で因幡守を兼ね、

長岡京造営始 784=62歳 : 刑部卿をも兼ねたが、

藤原種継暗殺 785=63歳 : 没した。